

目的 現代高校生の高齢者に対するイメージ、いたわりなどの意識や関心の現状を分析し、それらに影響を与えている要因を明らかにする。

方法 神奈川県と茨城県の5校の女子高校生約1000名を対象に、質問紙による意識調査を行い、「高齢者のイメージ」「高齢者へのいたわり」「高齢者や高齢者問題についての関心や学習要求」の実態と、それらに影響を与えている要因を明らかにする。

結果・祖父母と同居している者は割強ほびであり、高齢者との接触経験や、学校や家庭での高齢者についての学習経験は乏しい。高齢者に対し、マイナスのイメージをもち者が多く、また、いたわる気持ちがあっても行動にうつせない者が多い。

- ・高齢者のイメージは、高齢者との接触経験と関連があった。
- ・高齢者へのいたわりは、高齢者との接触経験、学校や家庭での高齢者についての学習経験、過去における祖父母との同居経験と関連があった。
- ・高齢者や高齢者問題についての関心は、学校や家庭での高齢者についての学習経験と関連があった。
- ・家庭科における高齢者や高齢者問題についての関心や学習要求の高さは、高齢者との接触経験、学校や家庭での高齢者についての学習経験と関連があった。
- ・老人ホームへの訪問経験や、祖父母との同居経験が、高齢者に対するイメージやいたわり、高齢者や高齢者問題についての関心や学習要求に与える影響は小さかった。